

三重県立尾鷲高等学校

県立尾鷲高等学校では、8月末から11月末までの約3ヶ月間にわたり、1年生の美術の授業で、尾鷲ヒノキを使った箸作りに取り組みました。

平成26年11月10日(月)、12日(水)、14日(金)には、美術選択の1年生が各日3講座に分かれて、県尾鷲農林水産事務所林業普及指導員の北川雅義さんからお話を伺い、尾鷲ヒノキや森林・林業について学習しました。「尾鷲ヒノキの産地である尾鷲市と紀北町の面積の約9割を森林が占める」ことや、「林業には、植え付けや下刈り、除伐、枝打ち、間伐、主伐等一連の仕事がある」、「地域の森林から生産された木材を使うことが、地域の活性化や森林の再生につながる」といった説明があり、生徒たちは熱心に聞き入っていました。

講義の後は、生徒各々が尾鷲をイメージしたデザインをもとに、ヒノキの木材を削ってオリジナルの箸作りを進めました。完成した作品は、県立熊野古道センターで開催される「マイはしコンテスト」に出品しました。



尾鷲ヒノキや森林・林業について学ぶ



尾鷲ヒノキを使った箸作り



作業風景

時間	50分 ※尾鷲ヒノキを使った箸作りは、8月末から11月末までの美術の授業、計20時間を通して実施
場所	美術室
対象者・人数	美術選択1年生55人 3講座に分かれて実施
講師	・県林業普及指導員 北川雅義さん ・NPO法人海虹路(えごろ)
内容	・尾鷲ヒノキや森林・林業についての講義 ・尾鷲ヒノキを使った箸作り
備考	「みえ森と緑の県民税」を活用した森林環境教育出前授業